

# はじめに

『わいわい文庫活用術』は、今年で9冊目を数えますが、順に目を通していくと、実践内容がそれぞれの時代を反映していることがわかります。

今年のレポートでは、「新型コロナウイルス感染防止」と「GIGAスクール構想」の2つがキーワードになっていると感じました。

その代表例として、つぎのような記述を挙げておきます。

「マルチメディアDAISY図書は、紙の書籍に比べて消毒がしやすく、読み上げがあるため飛沫の心配もなく、新しい指導様式に対しても有効に活用できると実感しました。」

「GIGAスクール構想が始まり、子どもたちに1台ずつ情報端末が配布され、タブレット端末で読書を楽しむ光景が校内では珍しくなくなりました。わいわい文庫が日常に溶け込む日が、もう近くまで来ているように思います。」

2020年4月に入り、複数の学校からわいわい文庫への問い合わせがありました。いずれも休校が続くため、家庭での学習にわいわい文庫を活用したいという内容です。自宅への貸し出しは、障害があるお子さんでしたらまったく問題はありません。

ただし一部からはWeb配信の相談で、一般の方も閲覧できる方式でしたので、著作権法を守るためにご遠慮いただきました。

しかし、一人ひとりが情報端末を活用するGIGAスクール時代を迎え、わいわい文庫の配信は、障害があるお子さんにとって気軽に読書を楽しむ機会となります。そこで国立国会図書館と協議をし、2021年2月より同図書館が運営する視覚障害者等用データ送信サービスから、わいわい文庫の送信を開始しました。

◎国立国会図書館 視覚障害者等用データ送信サービス案内

<https://www.ndl.go.jp/jp/support/send.html> (個人向け)

[https://www.ndl.go.jp/jp/library/supportvisual/supportvisual-10\\_02.html](https://www.ndl.go.jp/jp/library/supportvisual/supportvisual-10_02.html) (図書館向け)

このサービスは、視覚障害その他の理由で通常の活字の印刷物を読むことが困難な方（プリントディスアビリティ）が対象です。わいわい文庫は、市販されている書籍を中心に350作品が配信されています。

さて、5年ほど前にオックスフォード大学の研究チームが、20年以内に現在ある職業の約半分が、人工知能技術に取って代わられると発表しています。マニュアル化が可能な仕事は、処理能力が速く24時間働き続けられる人工知能が勝るという予測です。反対に残る仕事は、包容力と柔軟な判断能力、コミュニケーション能力、常識が求められる職業。例えば医療や教育関係、業務の管理者などがあげられています。

この先の社会では、AIでは困難な「豊かな人間性」が大切であるという結論です。それを身につけるためには、読書が有効な手段の一つではないでしょうか。読書が豊かな人間性を築くために多岐にわたる効果があることは、本誌内で多くの方が記されています。

なによりも、私たちはわいわい文庫を通して「生きる楽しさ」や「知る喜び」を一人でも多くの障害があるお子さんに感じてもらうために、活動を続けてまいります。

2021年3月

公益財団法人伊藤忠記念財団